

大学史研究通信

第 40 号、2004 年 8 月 31 日 (火)

大学史研究会

第 40 号の内容：第 27 回大学史研究セミナーのお知らせ・新入会員・会員ニュース・新入会員自己紹介・研究紹介・会員新刊ニュース・事務局からのお知らせ・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

第 27 回大学史研究セミナーのお知らせ

第 27 回大学史研究セミナーの開催について

第 27 回大学史研究セミナーを以下の場所・日程で開催いたします。

場 所： 帝京大学八王子キャンパス（東京都八王子市）

日 時： 2004 年 11 月 27 日（土）、28 日（日）

当日の詳細なプログラムについては現在調整中ですが、本年度のセミナーは課題研究、自由研究、総会、懇親会という構成で、開会は 27 日午後、散会は 28 日昼または早めの午後になる見通しです。

また、課題研究については『大学史における公共性』を暫定的なテーマとして準備を進めておりますが、もし他に案をお持ちの方があれば急ぎご連絡をお願いいたします。

第 27 回大学史研究セミナー自由研究発表者募集

2004 年 11 月 27 日（土）、28 日（日）に帝京大学八王子キャンパスで開催される第 27 回大学史研究セミナーにおいて自由研究発表をしていただける会員の方を募集しております。ご発表いただける方は 2004 年 9 月 30 日までにセミナー担当までご連絡下さい。

2005年度第28回大学史研究セミナー開催校および共通テーマ募集

来年（2005年）度第28回研究セミナーの開催校および共通テーマを募集します。昨年、一昨年度と同様にできれば総会の場で次回開催校をご承認いただけるようにしたいと考えておりますので、来年度のセミナー開催を引き受けてもよいとお考えの会員あるいは機関がございましたら、できるだけ早い時期にセミナー担当までご連絡いただきますようお願いいたします。なお、会場提供あるいは共通テーマの提案のみでも構いませんので、その場合も是非ご連絡をお願いいたします。

セミナーに関する連絡・問い合わせ先：

事務局セミナー担当 福石 賢一

〒807-8586 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 九州女子大学文学部

Tel. / Fax. : 093-693-3335

E-mail : fukuishi@kwuc.ac.jp

新 入 会 員

沖塩 有希子 会員 （入会日 2003年 12月 18日）

所属： 青山学院大学大学院博士後期課程

住所：

電話：

E-mail：

専門分野： (1) 19世紀イギリスにおける女子高等教育について。

(2) 19世紀イギリスにおける女子中等教育について。

大平 和典 会員 （入会日 2004年 5月 3日）

所属： 皇學館大学助手・学校法人皇學館館史編纂室室員

住所：

電話：

E-mail：

専門分野： 日本史学史・学術史

会員ニュース

犬塚 典子 会員 (所属変更)

所属： 東北大学 ジェンダー法・政策研究センター

住所 (勤務先)：

電話 (勤務先)：

大川 一毅 会員 (所属変更)

所属： 秋田大学 評価センター

住所 (勤務先)：

電話 (勤務先)：

E-mail：

篠田 健一郎 会員 (所属変更)

所属： 東京都立富士森高等学校

住所 (勤務先)：

電話 (勤務先)：

寺崎 昌男 会員 (所属変更)

所属： 立教学院本部調査役、東京大学・桜美林大学名誉教授

吉永 契一郎 会員 (所属変更)

所属： 東京農工大学 大学教育センター

住所 (勤務先)：

電話 (勤務先)：

E-mail：

杉谷 祐美子 (所属変更)

所属： 青山学院大学 文学部教育学科

住所 (勤務先)：

電話 (勤務先)：

E-mail：

新入会員自己紹介

大平 和典 会員

このたび、本会に入会させていただくこととなりました、皇學館大学助手・学校法人皇學館館史編纂室室員の大平和典と申します。

本学では、これまでに『神宮皇學館五十年史』・『神宮皇學館創立六十周年記念誌』・『創立九十年再興十年皇學館大學史』・『皇學館大學百年小史』といった沿革史が刊行されておりますが、去る平成十四年には大学創立百二十周年を迎え、出版事業としては記念誌編纂室から主に学園関係者の記録・体験談・回顧録を集成し年表一冊を付した『皇學館百二十周年記念誌』を発刊いたしました。平成二十四年には、大学創立百三十周年を迎えますが、この年は大学再興五十周年にもあたりますので、これにむけて大学施設の充実などの諸事業の他、新たに館史編纂委員会が組織され、本格的な学園通史編纂を計画し、その準備が始まりました。

小生は大学院博士前期課程修了後、高校の非常勤講師を勤めながら、昨年は大学史料編纂所研究嘱託に所属しておりましたが、この春より、委員会での学園通史編纂の必要業務のため設置された館史編纂室に所属することとなりました。

学園史編纂にあたる館史編纂委員会は、大学教職員および附属高校・中学教員を含む十八名により構成されており、館史編纂室では渡辺寛室長（文学部教授、館史編纂委員長も兼任）のもと、小生が室員として所属し、現在は主に資料の収集や、目録類の作成などの作業にあっております。

学部・院では日本古代史を専攻し、六国史の一つ『日本後紀』について研究課題といたしておりましたが、近世期における『日本後紀』復原作業に関心をもち、現在は近世期の修史事業を中心に日本史学史について研究課題といたしております。今後は後世における六国史の利用ということで、また大学史編纂にかかわる機会をいただきましたことから、修史事業のみならず、思想史・教育史にも発展させていきたいと考えております。浅学の身ゆえ、教育史の分野についてまったく無知であることお恥ずかしく存じますが、本会の諸先生方よりご指導・ご高教賜わりたく、入会させて頂いた次第でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

研究紹介

女性大学教員のキャリア形成に関する国際比較研究

坂本 辰朗 (創価大学)

sakamoto@soka.ac.jp

今から4年前になるが、羽田貴史会員よりお誘いをいただき、広島大学の評議会で「ポスト・アフターマティブ・アクション時代のアメリカ合衆国の女性大学教員」という講演をさせていただいたことがあった。折しも当時は、日本の大学全体の中での女性教員の比率は14%、これを国立大学だけで見れば、わずか7%にも満たない状況であり、これを憂慮した国立大学協会が、『国立大学における男女共同参画を推進するために報告書』を公表し、2010年までに女性教員の割合を20%にまで高めることを提言した時期であった。広島大学は平均値を大きく上回っていたにもかかわらず、大学を挙げて、この問題に真摯に取り組んでいる姿勢に私は大いに心を動かされ、浅学をかえりみず馳せ参じた次第であった。

あれから4年経った現在、日本の大学における女性教員の比率は当時とほとんど変わらず、全体比でわずか15%である。女性大学教員職の形成が歴史的に早く進展したアメリカ合衆国では、この数値は41%程度となるが、同国では女性の学生が今や高等教育人口の過半数を占めていることを考えれば、決して満足できる数字ではない。さらに、大学教員を職階別あるいは分野別に統計を取れば、日米ともに、そこには著しいジェンダー・インバランスが見てとれる。

さて、これらはいわば外の問題であるが、私にとってのもう一つの憂慮は、自身の勤務先のことであった。自分が偉そうに他所で話をしておきながら、自身の足下は「国立並み」というのは何だと言われかねない。とは言え、自身は大学行政ではなく研究の方を通じて微力をつくすしか手はない。そのように考えていたところ、今年から学内で、全学対象の公募研究「オープン・リサーチ・プロジェクト」という制度ができることになり、これに全三年計画の「女性大学教員のキャリア形成に関する国際比較研究」というテーマで申請したところ、幸いにも採択された。学内の他の先生二人に、中国およびアメリカ合衆国の先生方一人ずつにプロジェクト・メンバーとしてご協力をいただき、おおむね以下のような研究課題を日本、中国、アメリカ合衆国、ドイツの四カ国を対象に解明することを目的として掲げた。

(1) 女性大学教員は、そのキャリア形成の過程で、男性の大学教員とは異なった、どのような障害や差別に直面するのか。

(2) それらは制度そのものに起因するものなのか、それとも、特定の社会（あるいは高等教育システム）におけるジェンダー意識によるものなのか。

(3) 上記のような大学教員のジェンダー・インバランス是正のために、研究対象国ではどのような政策が採られているのか。

本研究では、質的事例面接を重視する。統計的な手法を軽視するつもりはないが、やはり問題の性質上、じっくりと話を聴くことが何よりも重要であると、研究計画作成時に話し合われたことによるものである。予算や人員はささやかであるにもかかわらず、テーマ自体は巨大で、果たしてどこまで解明できるのか、心許ないところではある。会員の皆さまからアドバイスやご協力をいただければ幸いである。

会 員 新 刊 ニ ュ ー ス

- 1) 館昭・岩永雅也編『岐路に立つ大学』放送大学教育振興会（日本放送出版協会）、2004年
- 2) 大学史研究会編『大学史研究通信』（復刻版）、全3巻、日本図書センター、2004年
- 3) T・J・ベンペル（橋本鉦市訳）『日本の高等教育政策 ー決定のメカニズム』玉川大学出版部、2004年

「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

この欄では、会員の研究活動の紹介を心がけておりますが、編集者の情報のみでは限界があります。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、編集担当杉谷までご一報頂ければ幸いです。

事務局からのお知らせ

紀要担当からのお知らせ

『大学史研究』バックナンバー（4～19号）を以下の機関に寄贈いたしました。

北海道大学教育学研究科図書室

東北大学百年史編纂室

国立国会図書館

文部科学省図書館

東京大学総合図書館

名古屋大学附属図書館

九州大学附属図書館

なお、寄贈に先立ち、受け入れの用意のあるなしを主要機関に問い合わせましたところ、京都大学、大阪大学の図書館からは辞退の通知が、また、筑波大学は無回答でした。

（紀要担当：吉村日出東）

退会者の報告

以下の会員の方が退会されました。長い間本会の活動にご協力賜りまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

退会者： 上山 安敏 会員 ・ 杉山 陽子 会員 ・ 望月 厚志 会員
東洋大学 井上円了記念学術センター 機関会員

原稿募集

『大学史研究通信』第41号は2004年10月31日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催の行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は『通信』編集担当の杉谷までお願いいたします。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は事務局進藤までご一報くださるようお願いいたします。教授・研究のために海外にご滞在予定のかたも、海外での連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は最終ページにごございます、進藤研究室宛にお願いいたします。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号まで希望者に頒布いたします。80円×部数＋郵送料（1部の場合90円、2部以上は120円）分の切手を同封の上、編集担当杉谷宛までご請求ください。ご連絡は最終ページをご覧ください。

編集後記

本年度最初の『通信』をようやくこのほど発行することができました。編集担当者が至らぬばかりで、会員みなさまに多大なご迷惑をお掛けしましたことを心よりお詫び申し上げます。今後は少しでも充実した紙面構成とスムーズな発行が可能となるべく努力したいと思いますので、併せてみなさまのご支援・ご協力を賜ることができましたら幸いに存じます。研究紹介や行事紹介などの交流の場として、是非とも『通信』をご活用くださいませ。より多くの方々のご投稿をお待ちいたしております。

（杉谷祐美子記）

『通信』編集は事務局・杉谷祐美子が担当しております。

連絡先（E-MAIL） sugitani@cl.aoyama.ac.jp

なお、E-MAIL以外による御連絡は、下記までお願いいたします。

連絡先 〒562-8558 大阪外国語大学外国語学部 進藤 修一研究室内

TEL / FAX 072-730-5355

E-MAIL sshindo@post01.osaka-gaidai.ac.jp

sshindo@jnb.odn.ne.jp

『大学史研究通信』第41号は、2004年10月31日発行予定です。

大学史研究会事務局

〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1

大阪外国語大学外国語学部 進藤 修一研究室内 大学史研究会

TEL / FAX 0727-30-5355 EMAIL sshindo@post01.osaka-gaidai.ac.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

大川 一毅（秋田大学）

杉谷 祐美子（青山学院大学）

吉野 剛弘（鹿児島女子短期大学）

進藤 修一（大阪外国語大学）

福石 賢一（九州女子大学）

吉村 日出東（明治大学）